プロジェクト研究３『コロナ禍におけるインクルーシブ教育の実践と評価』（3 年目）

担当：小島道生（附属学校教育局）

【構成】

附属学校教育局　1 名、附属視覚特別支援学校　2 名、附属大塚特別支援学校　8 名、附属桐が丘特別支援学校　1 名

【研究の趣旨と目的】

コロナ禍において、感染予防の観点から、教育機関では授業などにおいて、様々な新たな実践が取り組まれている。そして、交流及び共同学習においても、オンラインによる取り組みなどが示されつつある。

そこで、本研究では、コロナ禍におけるインクルーシブ教育の実践について検証し、より効果的な教育実践の在り方について検討することを目的とする。附属学校群と局での取り組みについて検証するとともに、国内外の研究者や学校機関とも連携をし、教育実践の状況や効果的な支援の在り方について検討する。

【令和５年度において得られた成果】

コロナ禍における交流及び共同学習の効果的な実践の在り方について検討した。今年度は、1)改めてコロナ禍を振り返り、交流及び共同学習の実践において、どのような影響あるいは課題や成果があったか 2)コロナ禍の時とコロナ禍後において、交流及び共同学習はどのように変わったか？ 3)今後、より充実したインクルーシブ教育を実現していくために、附属学校としてはどのような取り組みが必要と考えるか？また、附属学校教育局としてはどのような取り組みが必要と考えるか？という点について審議、検討を行い、コロナ禍における交流及び共同学習の課題と成果について分析した。また、今後、インクルーシブ教育を実現していくために、附属学校として求められる取り組みなどについても、検討した。

【令和６年度に向けた課題】

本プロジェクトはコロナ禍における検討ということもあり、令和５年度で終了となる。